

平成29年度 第2回我孫子市文化財審議会会議録

1 開催日時 平成29年10月14日(土) 午後3時から4時30分まで

2 開催場所 我孫子市教育委員会 大会議室

3 出席者

(委員)

金丸和子副会長、浅間茂委員、河東義之委員、西川誠委員、古里節夫委員

(欠席者)

梅村恵子会長、佐野賢治委員

(事務局)

鈴木肇文化・スポーツ課長、辻史郎主幹、木村亜由美主査長、田中友紀恵主任主事、
手嶋秀吾文化財主事

4 挨拶

5 議題

「白樺文学館リニューアル基本設計」の策定について

6 そのほか

①旧井上家住宅二番土蔵保存整備工事について

②井上家資料目録作成について

7 公開・非公開の別 公開

8 傍聴人 1名

9 議事概要

鈴木課長 本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本会は、平成29年度の第2回目文化財審議会になります。どうぞよろしくお願いいたします。

会議の進行にあたり、本日は、梅村会長が欠席されています。『我孫子市文化財の保護に関する条例』第20条第3項には「副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときはその職務を代理する。」とありますので、副会長の金丸委員に会議の進行をお願いいたします。

金丸副会長 よろしく願いいたします。

議事を進めさせていただく前に、我孫子市情報公開条例第18条に基づ

ことを含めての機能向上です。主なものとして、①常設展示室と企画展示室の確保、②収蔵庫の確保、③学芸員室・作業場所の確保、⑥エレベーターの更新、⑨遮熱・遮光、⑫バリアフリー化、を挙げました。①は、現在、企画展示を行なう際には常設展示を撤収して展示場所を確保している状況のためです。また②収蔵庫は、展示ケースの裏や空きスペースに資料を詰め込んでいるのが現状で、地下に収蔵庫を設け、温湿度管理を徹底してキッチリ管理したいということです。また③学芸員室等は、展示替え、資料解析などの作業を現在は1階の図書室など来訪者の目に入る場所でおこなっているため、使用できるようになった約20平方メートルを充てて、3階の一部を復活させて使えるようにする、ということです。⑥エレベーターは特殊な仕様のものであるため維持費がかかることから、汎用性の高いものに入れ替えるものです。⑨の遮熱・遮光は展示室、学芸員室などの日光が差し込む窓を廃止し、展示物を守るためです。⑫バリアフリー化は1階トイレを車椅子仕様とするものです。

次に2つ目の「展示の魅力向上」ですが、白樺文学館の収蔵資料は、創立者が収集した白樺派関連の資料と、市の運営になってから寄贈・収集したものからなっています。ただ、「なぜ我孫子に白樺派が集ったのか」「日本文化史における白樺派の位置付け」など、部屋の小ささなど物理的な制約から基本的な情報を提供する展示ができないのが実情です。先ほどの「施設の機能向上」にあるように「常設展示室と企画展示室の確保」をした場合、どのような魅力ある展示を行なうかが重要となってきます。そこで常設展示では「白樺派と我孫子」「文学と我孫子」「民藝運動と我孫子」「絵画と我孫子」という4つのメインテーマを立て、ビジュアルにも訴えかける常設展示を目指します。また企画展示では、外部から借用する資料を含め、タイムリーな展示を行ないます。いずれも外国人をターゲットとして解説を助けるデジタル機器を積極的に活用します。

今後の予定としては、平成30年度にリニューアル工事の詳細内容を決定した実施設計を委託し、平成31年度の一年間をかけてリニューアル工事を実施する予定です。

金丸副会長
河東委員

事務局からの報告が終わりました。質疑、ご意見等はございますか。

施設の災害対策として、地震、火災が発生した場合の避難経路の計画を立てておく必要があると思います。火災時の避難については一般的に二方向避難といい、二方向の避難経路を確保する必要があります。エレベーターを挟んで2カ所階段がありますが、そこから避難できない時の計画を検討しておいた方が良いでしょう。また2階、3階の避難口の確保についても、後からではできないので対策が必要です。

次に建築についてですが、このリニューアルによって外壁の塗り直しや窓の撤去等を行うので外観が大きく変わります。これを機会にできるだけ印象に残るような外観を目指してはどうでしょうか。正面の外観は一層部、二層部、最上部で表情が変わっていますので、意匠や色をどうするか、窓がなくなった後の扱いを外観上どうするか。あまり奇抜なことはやるべきではないと思いますが、窓をなくして壁にして今と同じ色を塗るだけでは勿体ないので、現状のデザインより良くしようという視点で考える必要があると思います。白樺文学館前の道路は狭くて引きがないので、建物を見て印象に残るのは正面の大きく湾曲した部分だと思います。その部分のデザインを検討した方が良いでしょう。

辻主幹 避難計画等については、必ず消防に届出をして必要な機器・点検等を毎年行っています。今後も継続しながら、避難経路の計画を行います。

外観についてですが、現時点では、外壁については白く塗る予定となっていますが、白い壁は汚れが目立ち、維持メンテナンスをしてもまた同じような状態になると考えられるので、何か良い素材などがあればと検討をしていたところです。

河東委員 外観については、先ほどもお話ししたとおり引きがないので、正面の部分だけ考えれば良いと思うのですが、ポイントになるとすると1階の庇の部分ですね。今と違う色に変えることでポイントになると思います。それから、3階部分がへこんでいますので場合によっては真ん中と色を変えてもいいのではないかと思います。両側の窓がなくなりますので、そこを全部壁にするのか、あるいは内側だけ壁にし、外側は窓らしきものを残したデザインにするのか。色々な方法があるかと思っています。

金丸副会長 リニューアル計画を外観まで広げて考え直すというご提案でしょうか。

辻主幹 このリニューアルの計画の中では、防水工事を必ずしなくてはならない状況です。屋上の防水が切れていて目地から水が入ってきているのではないかとと思われる箇所があるので、いずれにしても吹き付け直しや目地を埋める作業が発生します。そうすると少なからず外観を触る必要性はあるので、色を変えることなど、検討してみる余地があるのではないかと思います。

浅間委員 市民にとっては「白樺」のイメージがあるので、やはり白なのかなと思います。色といってもかなり幅を狭めて考えないと難しいのではないかと思います。水を弾くような素材や汚れが付かないような素材を調べて考慮していただきたいです。周りの景観との兼ね合いも含め、白樺の木のイメージから白がいいのではないかと思います。

河東委員 私もおそらくそうだろうなと思います。真ん中の大きく湾曲した面は白樺を意識して白系統になるかと。上はそれより引っ込んでいて、下から見るとかなり幅が狭く見えますので、ここの所の外壁は必ずしも白に合わせる必要はないかなと思います。それと1階部分の庇が回っている部分についても

ポイントとして変えてみてもいいのではないかと思います。

古里委員

火災に対する対策ですが、重要文化財などを借用する際、防火対策について必ず問われます。このような施設は、原則スプリンクラーなど水を使った消火設備は使えませんので、ガスを使った消火設備が使用可能かどうか専門家に見ていただいて検討された方が良いでしょう。紙資料が多いので温湿度の管理も重要ですが、虫に対する対策も考えておかれた方がよろしいかと思います。一番有効なのは燻蒸なのですが、有毒なガスが発生するので立地から考えると難しいかと思います。これは、白井市の例ですが、白井市にある郷土資料館は複合施設のため燻蒸ができない環境なので、年に1回包み込み燻蒸を行っています。新しく入る資料や借りてきた資料などは、展示室、収蔵庫に入れる時に燻蒸するという対策をとっているようです。包み込み燻蒸は野外で行うので、実施可能な場所を確認しておかれた方が良いでしょう。また、定期的に燻蒸できないような場合は、昆虫が入ってきているかどうかチェックするためにインセクトトラップを置いて現状を把握するということが重要です。紙資料なので封筒は中性紙を使用するなど紙独特の対策がいくつかあると思います。

辻主幹

古里委員からは事前にご指摘を頂いておりまして、調べてみますと全国美術会議保存研究会が策定した「日本版ファシリティレポート」の中に「文化財の殺虫・殺菌処理標準仕様書」というものがありました。この仕様に沿って燻蒸発注をしているところが多いようです。具体的なイメージとしては、ドラフトのようなスペースを設けて入ってくる資料を個々に燻蒸するのか、それとも定期的にまとめて業者に発注するような形になるのでしょうか。

古里委員

燻蒸釜を備えて入ってくる資料を個々に燻蒸するのが最善ですが、手間と費用を考えますと、年に1、2回業者に委託して燻蒸した資料を展示室や収蔵庫に入れるというのが現実的でしょう。ですので、そういった燻蒸費用についても予算に組み込む必要があると思います。

河東委員

東京文化財研究所に虫害の部門があります。以前日光の輪王寺の三仏堂にオオシバンムシという虫が発生した際にそちらの方に協力していただいたことがあります。その時は最終的に建物に覆いをかけて全館燻蒸という形で燻蒸をおこないました。そういった専門家に聞いてみるというのも手だと思います。

金丸副会長

紙の資料の燻蒸と建物の燻蒸、どちらも専門にされているということでしょうか。

河東委員

どちらにも関わっている方々だと思います。

辻主幹

ありがとうございます。

金丸副会長

ほかに何かございますか。

辻主幹

「展示の魅力向上」に関して何か方向性のご意見はありますでしょうか。

西川委員

なぜ「白樺派と我孫子」なのかということが一般には繋がらないと思

ますのでその説明の常設展示が先ず必要かと思ひます。それから「文学と我孫子」に関しては、そもそも柳宗悦の民藝運動と白樺派がどういった関係かということも一般には分かりづらいと思ひますのでそこについても丁寧に示していただいた方が良くと思ひます。また我孫子でどのような文学が生まれたのかということについても一見しては分かりづらいので、湖や自然あふれる環境が文学的着想や民藝運動に繋がったという部分の説明についても常設展示で補足していただければと思ひます。

辻主幹 ありがとうございます。

西川委員 それから基本計画の外国人に向けての情報発信についてですが、私の大学の観光学の先生に聞きしましたところ、現在外国人が行きたがる場所というのは、日本人とは全く違うそうです。SNSで流れる情報というのが重要になるのでそういった方向性も考えていただくと良いかと思ひます。今日本で一番外国人が来るのは飛騨市だそうですが、飛騨市では市の案内パンフレットが10～15カ国語あるそうです。そういった部分についても考えると市全体での外国人への情報発信へと繋がると思ひます。

金丸副会長 ありがとうございます。15カ国語というのはすごいですね。

西川委員 タガログ語ですとか、インドネシアやイスラームの方向けのパンフレットも有るとするのが重要なのだと思ひます。

河東委員 3カ国語なんかではなく、他にやっているところのない15カ国語というのがポイントですね。

企画展示の基本構想についてですが、杉村楚人冠記念館、旧村川別荘、旧井上家住宅と連携して行くとありますが、白樺文学館は博物館としては規模が大きくないので、このように別の施設との連携というのは非常に重要だと思います。複数の場所での総合展示というものをぜひやっていただければと思ひます。一か所に行けばそれで良いということになりかねないので、規模が大きければ良いというものではありませんね。

金丸副会長 まち歩きもできて良いと思ひます。

浅間委員 駅などにそういった総合案内のようなものは掲示してありますか。

辻主幹 駅を降りて左手にインフォメーションセンターがあるのでそこで情報を得てもらうようになっています。

浅間委員 駅を降りてすぐぱっと目につくようなものがあっても良いと思ひます。

河東委員 そういったところに展示や建築の案内情報が集約されていることも必要かもしれません。

浅間委員 インフォメーションセンターにはそういったパンフレットなどは置いてありますか。

辻主幹 インフォメーションセンターにはマップですとか、より知りたい方向けに資料のコピーが置いてあります。

金丸副会長 展望も含めてご意見をいただけたかと思ひますが、いかがでしょうか。

- 古里委員
辻主幹 もう一点、学校教育との連携はお考えになっていますか。
学校との連携は非常に重視しています。現在我孫子市では「ふるさとカリキュラム」というものがありまして、「我孫子の先人」という副読本を作成しています。小中学校ではこれをもとに地域学習を行っていて、白樺文学館のそばにある我孫子第一小学校などではそういった地域学習での連携が盛んです。近年では、高学年の子どもがフィールドワークで学習した内容を低学年の子どもに教えるといったようなことも行われています。これからも更に連携を強化する必要があると思います。
- 浅間委員 現地見学の際にジオラマという話が出ましたが、手賀沼との関わりというものを説明する際にジオラマを使うといった具体案があるのでしょうか。
辻主幹 水辺との距離感というものが埋め立てによって昔と今とでは随分変わっていますが、そういった部分を目で見て分かり易いものということでジオラマか、または映写するものがよいか様々なものを検討したいと思います。
- 浅間委員 やはり子どもには説明板などよりもそういった目で見て分かるものということが興味を引く導入として重要だと思います。紙芝居があるとのことでしたが、具体的にはどういった内容のものですか。
辻主幹 柳宗悦が壺と出会った話などを学芸員が手作りしていたこともあったのですが、現在では朗読をしながらピアノの演奏をするといったものになっています。
- 西川委員
辻主幹 ピアノのスペースというのは今後も同じように活用していくのですか。
そのように考えています。現在公民館の事業として、講座を受講して朗読の勉強をするというものがありますが、その発表の場として図書館や白樺文学館があります。生涯学習の場としても重要ですので継続的に行っていきたいと考えています。
- 河東委員
辻主幹 (設計にある) コミュニティルームというのがそれにあたるのですか。
そうなります。現在ピアノがあるスペースはリニューアル後コミュニティルームとして、これまで同様の活用を考えています。
- 河東委員 コミュニティルームは天井が低く壁も近いので音が反射し、音楽の演奏を聴くのに適してはいませんが、話を聞くのには逆に良いかもしれません。仕上げ材のやり方で変わってくると思います。
浅間委員 狭い空間だから良いということもあると思いますので、そういった点も考慮して進めていかれると良いかと思います。一度来た人がもう一度来たくなるような空間づくりと企画展を魅力的にするのが重要だと思います。
- 河東委員 現在車を止められるのは4、5台だと思いますが、少し歩く距離でも止められるスペースというのはありますか。
辻主幹 現在はアビスタの駐車場に停めていただくしかない状況です。
河東委員 歩いてどのくらいですか。
辻主幹 5分もかからないと思います。1時間までなら無料ですので、それだけ

あれば十分展示が見られると思います。

河東委員 現状ですと、文学館の駐車場が満車の状態で来館者が来た場合、車を停められないと思って帰ってしまうことになると思います。そういった時にアピスタの駐車場を案内するような掲示をしておくの良いと思います。

浅間委員 白樺文学館の規模だと1時間あれば十分見て回れますね。そうすると、やはり掲示のようなものはあった方が良いでしょう。

河東委員 白樺文学館前の道が「ハケの道」にあたるのでしょうか。

辻主幹 そうです。

河東委員 であるならば、そういったところも含めてアピールすると良いと思います。

金丸副会長 いかがでしょうか。では、これらの意見を踏まえて進めていただくという事でよろしく願いいたします。

金丸副会長 続きまして、そのほか、として①「旧井上家住宅二番土蔵保存整備工事について」について、事務局から説明をお願いします。

辻主幹 資料2をご覧ください。旧井上家住宅二番土蔵については、平成28年度に「二番土蔵保存整備工事」に着手しました。完成は平成30年7月末、工期は24カ月を予定しています。平成28年度には覆い屋をかけ、記録しながら全解体し、礎石を並べ直した後で木部の立ち上げまでを行いました。29年度は土壁の下地となる「竹木舞」を組んで、土壁を塗った後、瓦を葺き直し、漆喰の一部を塗るところまで行います。平成30年度には漆喰仕上げと下見板を取り付けて完成予定です。現在のところ、土壁塗りの最も基礎になる「荒壁付け」、ヒビなどの「大直し」、縄を追加して塗りこめる「小直し」を終えて、屋根瓦を葺き直して、屋根漆喰の塗りを行っています。

金丸副会長 それでは事務局からの報告について、質疑はありますでしょうか。

河東委員 蛭はどうするのでしょうか。

辻主幹 蔵の床下に敷き詰めてあった蛭貝ですが、一度全て取り去って再度敷き直しをする予定です。床は、一部を点検口として開けて見られるようにし、施設案内の際、その部分を開けて調湿・防臭効果を狙ったものであること説明できるようにするという事を考えています。

河東委員 場合によっては、一部床をガラスにして下を見せるようにしても良いかもしれませんね。壁にアクリル板を入れて、構造が見えるようにしているところもありますし、「蛭蔵」と呼ばれるくらい珍しいものですから。

辻主幹 予算の関係もありますので、その中で見せられる工夫を最大限したいと考えています。また何か現場の方から質問事項等が寄せられた際は、河東委員にお伺いしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

金丸副会長 よろしいでしょうか。では続きまして、②「井上家資料目録作成」について、事務局から説明をお願いします。

辻主幹 資料3をご覧ください。井上家資料は、旧井上家住宅を所有していた井上家に所蔵されていた資料群を言います。平成28年度より2か年の予定で整理作業を行い、今年度末に目録を出版する予定です。現在まで判明している井上家資料の内容としては、書簡、書籍、民具、美術品、写真など多岐にわたる1万8千点余りとなっています。特に手賀沼干拓に関わる江戸から昭和に至る文書資料は、手賀沼干拓と共にあった当家の歴史を物語る資料として、近世から近代へ向かう農村の情勢を物語る資料として極めて重要なものです。また美術品の中には浮世絵（錦絵）約330点が含まれており、江戸で財を成した井上家らしい資料となっています。

金丸副会長 それでは、事務局からの報告が終わりました。質疑、ご意見などはありますでしょうか。

辻主幹 現在順調に資料の整理が進んでおりまして、その中には「オリンピック手賀沼誘致計画に関する書簡」というものがあります。嘉納治五郎が我孫子に別荘を持っていたので、ボート会場を手賀沼に誘致する計画があった、という口伝は今まであったのですが、その証拠となる資料が出てきたのは初めてのことです。このような資料は今後大いに活用できると思います。また、家の修築に関する資料も豊富にあります。見積書や大工の手間、発注元の店などが詳細に分かる資料がありますので、建物の修築の際にはこれらの資料にあたると更なる発見があるかと思えます。

河東委員 井上家住宅を市の指定文化財にする際、一部は拝見させていただいていますが、母屋の釜屋が鉄筋コンクリートでできていることや建物の年代が推定される資料もありました。またこういった資料だけではなく、実際の修理においても発見があります。裏門の棟札の年代はいつでしたか。

辻主幹 大正11年です。

河東委員 表門に関しては、資料からある程度の時期が分かっていたのですが、裏門に関してはそれよりも新しいということが推定されていただけでした。この棟札が出てきたことによって大正11年という年代が分かったわけです。また修理ではありませんが、漕場からも棟札が出ていて、大正8年という年代が判明しています。

鈴木課長 目録刊行後の取り扱いとして、井上家資料を一括して我孫子市の文化財に指定したいと考えています。まずは、平成30年度第1回目の文化財審議会において「市指定文化財候補」にし、平成30年度中に指定文化財に諮問したいと考えております。何かご意見をいただければと思います。

金丸副会長 今伺っただけでも非常に重要な資料であるということが分かりましたが、皆様いかがでしょうか。

西川委員 井上家が江戸に居住していた頃の資料というのはこれまでに調査されて

いるのですか。

辻主幹 我孫子市史研究センターという市民団体が概要を掴むための調査を行っていましたが、また、井上家の先代の当主の時代に部分的に調査は入っているのですが、あくまでも概要を掴んでいるという状態で目録も暫定的なものに留まります。今回の調査は、当時まだ把握していなかった民具類や浮世絵などを含んでおり、全体的に精度の高いものになっています。

浅間委員 写真は古いものでいつ頃のものが遺っていますか。

辻主幹 干拓をしている風景というものはあって、トロッコで土を運んでいるような貴重な写真もあります。また昭和10年に献穀田に指定された際の祭事の様子や一族が集合している写真などは遺っています。

浅間委員 昔の写真は当時のものがそのまま写っていますから、資料として非常に重要だと思います。

辻主幹 これも河東委員にご相談させていただいたのですが、二番土蔵の正面の仕上げについて、現状はかなり改変されているようでしたので、蔵の前で当時撮影された写真を参考としました。

河東委員 黒漆喰と通常の漆喰で時々塗り替える場合もありますし、街中ですと戦時中に全て黒く塗ってしまったという例もあるので、こういった当時の写真は非常に参考になります。

古里委員 井上二郎は養子ですよ。松戸の柳原水閘が彼の設計なのですが、そういった資料は遺っていますか。

辻主幹 彼は栃木県ですとか、軍関係でも技師として働いていましたが、柳原水閘に関する資料があるかどうかについては今私の方では把握しておりません。申し訳ありません。

金丸副会長 では今年度中の仕上げにそのような部分も反映していただくということでよろしくをお願いします。

金丸副会長 以上で議題が終わりましたので、このほかに何かご意見、ご質問などがありますでしょうか。

(意見等なし)

鈴木課長 現在、杉村楚人冠記念館で開催中の「『知の巨人』熊楠と新聞人楚人冠」と、白樺文学館で11月30日から開催予定の「バーナード・リーチ展」についてご説明いたします。ご存じの通り、南方熊楠は和歌山県に生まれた博物学者です。杉村楚人冠とは旧制和歌山中学在学中から交流があり、終生の友人でした。杉村楚人冠記念館と和歌山の南方熊楠顕彰館には双方が送った手紙が保存されており、今年は南方熊楠生誕150年という節目の年にあたることから、かれらの思想形成を和歌山から借用した資料を含めて紹介しようという意欲的な展示となっております。

また、「バーナード・リーチ展」は、今年が大正6年にバーナード・リーチが我孫子に窯を築いて100年目にあたることから、我孫子におけるリ

一チの活動を顕彰することを目的として、館蔵品と日本民藝館から借用した陶器類を展示するものです。館蔵品では、今年3月に入手したエッチング「手賀沼」を初公開します。これは大正7（1918）年、リーチが夕暮れ時の手賀沼で作成したスケッチをもとに作ったエッチングで、柳宗悦は「リーチの最高傑作」と激賞しています。昭和54（1979）年にリーチが亡くなってから、イギリスの遺族がリーチ宅の屋根裏で原版を発見し、版画家レッドグレイヴに頼んで作成したもので「レッドグレイヴ版」と呼ばれ、5点ほど作成されたようです。1点のみが美術品販売会の目録に乗っていたことから、購入することとしました。また、小説「リーチ先生」を上梓した、作家 原田マハ氏の講演会、関連史跡散策などのイベントも実施し、「我孫子におけるリーチイヤー」を盛り上げていこうと考えています。

河東委員 熊楠の展覧会についてですが、チラシで神社合祀の問題について触れられていますが、これはいつ頃のことでしょうか。

西川委員 一般的には日露戦争後、明治40年頃に村々の神社を合祀したと言われています。

河東委員 そのかなり早い段階での実例が我孫子市の不葺合神社です。

辻主幹 熊楠は植生が荒れることを懸念して神社合祀の動きに強く反発し、楚人冠が新聞記者としてその思い、活動を拾い上げるといったような、二人が両輪のように友情で結ばれていたということがよく分かる資料が多く展示されています。

金丸副会長 そこで、ぜひ地元我孫子の不葺合神社の例を取り上げていただきたいですね。他にないかありますでしょうか。

西川委員 話は変わりますが、白樺文学館と若い人向けのコンテンツとのコラボとといったようなものはできないのでしょうか。

辻主幹 調布市の武者小路実篤記念館が積極的に取り組んでいて、携帯ゲーム会社と共同して実績を上げているようですが、これにはご遺族の方の理解が必要不可欠です。ご遺族との関係を良好に保ちながら慎重かつ柔軟に考えていきたいと思えます。また、市内の大学の学生さんとうまくコラボできる方法を探していければとも考えています。

西川委員 ありがとうございます。

金丸副会長 他に、何かありますでしょうか。

(意見等なし)

よろしいでしょうか。それでは、以上を持ちまして本会を終了いたします。